

# 「これでいいのか! 『障害者自立支援法』9・30八王子集会」報告特集号

# SSKS



「ほっとスペース八王子」ニュース

# ほっと



70名余の参加者で催された「これでいいのか! 『障害者自立支援法』9・30八王子集会

2006年10月26日発行

第114号

定価 100円

発行所 郵便振替  
E-Mail: [hot-space@nifty.ne.jp](mailto:hot-space@nifty.ne.jp)  
ホームページ: <http://homepage2.nifty.com/hot-space/>

編集人 八王子市八幡町一三二-16 ぐくしまやビル2階  
「ほっとスペース八王子」(代表 堀部 正)  
電話 FAX  
A X  
〇四二一六二八二三九九  
〇四二一六二〇一七七八六  
<http://homepage2.nifty.com/hot-space/>  
CXB01672@nifty.ne.jp  
〇〇一八〇七七一六二四六「ほっとスペース八王子」  
世田谷区砧六二一六二一 障害者団体定期刊行物協会

## 集会成功から10・31大フォーラムへ!

10月9日 月曜日 14版 総合 2

### 86%が「見直しを」

#### 障害者福祉費用の1割負担

障害者自立支援法が、9月14日の参議院本会議で成立した。その中で、障害者福祉費用の1割負担が盛り込まれた。これについて、全国障害者福祉団体連合会(全連)は、10月9日、記者会見を開き、1割負担をめぐって、国や自治体、障害者団体、利用者、家族など、関係者の間で、意見の相違が大きいと指摘した。全連は、1割負担は、障害者の生活に大きな影響を及ぼすとして、見直しを求めた。また、1割負担は、障害者の生活に大きな影響を及ぼすとして、見直しを求めた。また、1割負担は、障害者の生活に大きな影響を及ぼすとして、見直しを求めた。

9・30の「ほっとスペース八王子」主催の集会はお陰さまで成功しました。

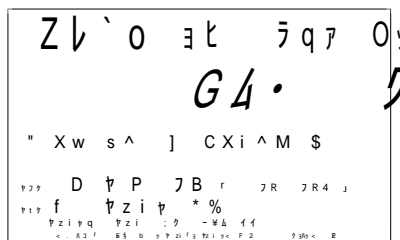
全ての皆様にお礼と感謝を申し述べます。集会での講演や報告の中で「障害者自立支援法」の持つ様々な問題点が明らかになりました。

堤愛子さんや仁木忍さんの話からは真面目に生き、働いても苦しくなる生活が浮き彫りにされました。

そしてこの声は全国にも広がっています。「ほっとスペース八王子」は法案の準備段階から反対して運動を進めてきました。いまやこの正しさが立証されたのです。今後も全力で取り組み、全国のたたかう団体、人々との連帯した力によって撤廃や大幅な見直しも不可能ではありません。

「障害者自立支援法」を支持していた朝日新聞の報道でも「障害者自立支援法」への疑問を報道し始めている。

10・31大フォーラム(日比谷野外音楽堂)、11・5日韓米国際連帯労働者集会を「ほっとスペース八王子」および全ての仲間と共に参加し、三障害の団体、労働組合との連帯さらに国際連帯とたたかい続ける中で撤廃まで頑張りましょう!(植松恵樹記)



# 「これでいいのか!」「障害者自立支援法」9・30八王子集会報告特集号

## 七〇余名の参加で大成功! 八王子市内、都区内からも多くの仲間や家族、関係者が参加

全国の市町村の約四割が「障害者自立支援法」の「応益負担」の軽減策を講じる中、「障害者自立支援法」はこの十月一日から本格施行されることになりました。

八王子市でも全「障害者」「精神病患者」施設の半分にも満たない施設数しか「障害者自立支援法」内施設(いわゆる新体系)に移行してはいません。

そういう中で、八王子市内で全国の仲間と呼びかけて「障害者自立支援法」見直しの集会がもたれたことは大きな意味があり



集会の最後は茉莉ちゃんの音頭でシュプレヒコールで締めくくりました

ます。

事業者当事者として、さらに「身体障害者」当事者でもある堤愛子さん、「統合失調症」当事者の七瀬タロウ氏、「視覚障害者」であり、東京Jロニー印刷所に勤務する仁木忍氏、八王子の三障害の各団体の連絡組織である八王子障害者団体連絡協議会の運営委員の松木正哉氏など「障害者自立支援法」に

### 自分から命を絶ってはいけない 生きることが最高のたたかい ただかわないで生きていけ



自らも当事者として応益負担で生活が大変になったと法の矛盾を鋭く突く堤愛子さん

集会の初めは町田のピア・カウんセラーの堤愛子さんから講演がありました。

いままでの

「障害者」福祉のあり方が全面的に破壊され、福祉とは言えなくなる。施設運営者と利用者との間に垣根を作り、対立させようとしている。

施行前から無理心中などの「障害者」殺しが絶えなくなった。自分も含めて、行政の前に立つと、「障害」を持つ上での生活上の不便さや思いがなかなか職員に言い辛くなる。こんなにまで「障害」のある



会場の準備も終わり、開会前に自分の原稿のチェック

けて取り組もつと確認されました。

よって影響を直接受ける当事者と当事者を受け入れて、地道に「障害者」福祉活動を進めてきた方々の「障害者自立支援法」の問題についての切実な訴えは会場に集まった参加者の怒りを、全国規模のたたかいへと結びつ

自分の人間としての自尊心をないがしろにするような事を言われなければならないのかと、はらわたが煮えくり返りそうな時もある。その思いが伝えられなくて、悔しくて、惨めに思われる事が嫌になつて、落ち込み、もう行政の前に行きたくなくなることもある。しかし、ここで引いたら行政には納得したと思われてしまう。

悔しいし、もう二度と行政の窓口に行きたくなくなるけど、「甘えろ」と言われようが、何度も何度も異議申し立てをしなければ、私たち「障害者」は殺されてしまうし、自分から命を絶つ羽目になる。生き抜きましょー!

生き抜くために、共にたたかきましょう!



# 「これでいいのか!」「障害者自立支援法」9・30八王子集会報告特集号

## 福祉後進国＝日本のお粗末さを力説

続いて、「統合失調症」の七瀬タロウ氏

は、「障害者自立支援法」と「医療観察法」についての治安的性格の問題性に触れ、特に病室の看板を施設と付替えるだけで精神病院内に退院促進支援施設、地域移行支援施設を作るといふ厚生労働省の姑息な精神病院建て直し支援策について批判されました。社会的入院と言われている七万二千名余りの仲間が、結局は精神病院内にそのまま収容され続けることを意味しているこのような数合わせの「精神病者」イジメを徹底的に叩いて行くことと決意されました。

さらに、日本の福祉のお粗末さは先進国と言われている中では最低水準であることとを力説。

福祉後進国である日本が「障害者自立支援法」によって、ますます後進性を強めていると訴えました。二〇〇四年の社会保障給付費のGDPに占める割合がスウェーデンでは三三・〇％、ドイツでは二八・二％、公的な医療保険制度が未整備であるアメリカでさえ一四・五％なのに対し、日本は



「障害者自立支援法」「医療観察法」の問題性について語る七瀬タロウ氏

一三・一％という水準でドイツの半分スウェーデンの三分の一しかないことを訴

えられました。

介護保険にしても、十月から改悪され、高齢者がますます生き辛くなってきました。医療費も高齢者にはかなり重い負担となり、生活保護者にまで負担を求める動きが始めています。そもそも「公益負担」という考え方が東西ドイツ

## 働きに行くのに何故お金を払わなければならないのか

当事者の立場から東京コロニー印刷所に勤める仁木忍さんは、仕事を



仁木忍さんは就労している立場からの怒りを述べました

が利用費なるものを払わなければならないのか。納得がいけない。

職場だったら福利厚生費になるだろう昼食代も自腹、普通だったら実費で支給されるはずの通勤費も自腹になった。そうでなくても賃金は少ないので、いままで働いて蓄えてきた貯金を崩さなければならなくなりました。仕方がないので、風は近くのハンバーガーショップで済ませている。飲み物は水だ。

こんなおかしいことが「障害者自立支援法」で起こっているのだ。今まで少ない収入の中から蓄えをし、何とか人並みの生活をこのまま続けていけるかなど思っていたら、今までの生活を壊さないと生き



YUKKYさんも労働団体のメッセージを読み上げます

ないことなどを述べられました。

が合流して危機に瀕した統一ドイツ以外にはないこと。そのドイツにしても「障害者自立支援法」のような高率での負担は

ていけなくなったのです。

何かおかしいと思いませんか。

テレビの取材でも、働けば働くほど自分の今までの生活が壊されてしまうので、働きたくなくなる仲間も増えていることを話しました。「障害者」の気持ちをこのように傷つける「障害者自立支援法」はなくなつて欲しい。「公益負担」は無くして欲しい、と訴えられました。

## 八王子障害者団体連絡協議会からの挨拶



八王子障害者団体連絡協議会から北木正哉氏が「障害者自立支援法」の平等性を批判

「八王子障害者団体連絡協議会」からは「第一若駒の家」の松木正哉氏から挨拶がありました。法案が発表された当初から反対してきて、特に「公益負担」は「障害」が重たい人ほど負担が重くのしかかる。「障害」は本

# 「これでいいの!」「障害者自立支援法」9・30八王子集会報告特集号



「障害者自立支援法」への怒りをみんなの胸にし、歌や演奏で平和で安心できる社会にしようと呼びかけました

その時々々の社会、生活、恋愛、親子：などについて思った事、感じた事をオリジナルの曲にして歌っています。歌が入ってくれたらCDもあります、と演奏してくれました。「ヨッシーとじゅごんの家」の皆さんは東京・練馬、「精神

「国分寺エクスペリエンス」は多摩地区を中心に、一八年間活動しているロックバンドです。今回の集会是歌と生ギターによる2人の演奏です。

## ライブ演奏も参加者に勇気を与え、集会を盛り上げてくれた

人や家族の責任というはるか昔の考え方が復活していると批判。「健康で文化的な最低限度の生活」を保障することが平等であり、負担を一律にすることが平等ではないと強い口調で訴えられました。「自己責任」という言葉が独り歩き、

弱い立場の人々が犠牲になっっているのは本当に許せない。日本国憲法の二五条(生存権の保障)は一体どうなったのかと鋭く指摘されていました。温厚な顔のどこからそんな強い言葉が迸せられるのかとびっくりしました。松木さんはその後の交流会でも終始にこやかにされていました。「障害者自立支援法」への怒りを共有する会となりました。



交流会では多摩地区交流バレーボール大会で優勝したソフトバレーボールの選手たちも交えて

ので、基本的に「闘争現場」以外では唄わない、と闘争現場でのライブ活動されています。「国分寺エクスペリエンス」、「ヨッシーとじゅごんの家」の演奏と歌は集会を盛り上げ、「障害者自立支援法」への怒りをいやが上にも新たにしました。「国分寺エクスペリエンス」は「世界のお母さん」「DNA」という曲で命の大切さを歌い、「ヨッシーとじゅごんの家」は「障害者自立支援法」のひどさを新曲で、また沖縄の自然を守れと歌ってくれました。最後に一〇・三一大フォーラム、十一・五国際労

「障害者」が働くリサイクルショップの共同作業所「オープンスペース街」と、沖縄・名護のリサイクルショップ「ジュゴン」のスタッフを中心にライブ活動しています。僕たちは民衆の生活と闘いの中で唄いたい

携も深めて行きたいという誓いも参加者一回で確認しました。十一月五日の国際労働者集会には是非とも参加して、「障害者自立支援法」撤廃に結びつけたいものです。




わかめさんとtoshiさんと行動提起をします

働者集会への訴えで締められました。二つのバンド演奏の間に労働団体からのメッセージを紹介しました。千葉動力車労働組合、東京労働安全衛生センターからのメッセージは弱い立場の民衆の生活と権利、平和を守る労働者の立場からのものです。今後労働団体との連

### 緊張した司会

クーちゃん



九月三十日ほっと主催の障害者自立支援法反対八王子集会が八王子労政会館で、ありました。この集会で、自分は司会をやりました。自分は凄く緊張してしまい、上手く喋れませんでした。そして講師の方々の紹介そして有難うございましたが全然言えませんでした。そして最後まで緊張してしまいました。来年はもっと上手く喋れるようになりたいと思います。

クーちゃんもしっかりと司会を頑張りました